

## 平成30年度 第2回 大阪府立狭山池博物館運営審議会 議事要旨

日時 : 平成30年9月26日(水) 18:00~19:59  
場所 : 大阪府公館 大サロン  
出席者 : 委員) 岡田委員・金田委員・小山田委員・栄原委員・向山委員(会長)・森委員・和田委員  
計7名 (欠席=佐伯委員・中川委員)  
事務局) 武井河川室長、小池河川環境課長、尾花富田林土木事務所長  
工楽館長、吉井副館長  
関係者) 大阪狭山市教育委員会 山崎部長、大阪狭山市都市整備部 田中課長(楠部長代理)、  
大阪狭山市政策推進部 森課長(田中部長代理)、狭山池まつり実行委員会 菊屋会長

### まとめ

- (1) 狭山池博物館の効果的、効率的な運営について
- ・事務局より、博物館運営の方向性と以下の3つの取組みをまとめた「効果的・効率的な運営について(素案)」を示し、各委員より意見を聞いた。
    - ①他機関と連携した新たな企画による来訪者数の向上
    - ②博物館全体の空間の多様な主体による利活用
    - ③中長期の取組み実現に向けた新たな収入確保
  - ・今回審議会の意見を基に素案を修正し、中間答申案をとりまとめ、次回審議会に諮る。

### 概要

(資料に基づき、事務局より説明)

〔各委員の主な意見〕

(全体的な意見)

- ・博物館の方向性など、全体的に分かりやすくまとめられている。
- ・博物館の防災教育拠点化という考え方は賛成。

(岡田委員)

- ・狭山池との一体化という項目の中では、「地域の魅力創造」だけではなく、狭山池自体が超1級の土木遺産ということで、「土木の歴史的価値の継承」の項目の中でも検討する必要があるのでは。
- ・学会は様々な取組みを行っており、『知』の交流・発信拠点、「土木の歴史的価値の継承」どちらに分類するか、協議した窓口により変わってくるのではないか。
- ・狭山池博物館だからこそできる防災教育として、災害時にどうするかという情報も重要だが、それをどう土木技術により克服したのかという2本立てになったときに、より深みのある学習ができると思う。

(金田委員)

- ・新たに防災教育拠点という機能を加えたのは大変よい。狭山池博物館が果たす役割としては非常に重要。
  - ・よくまとめられているが、このような総合的な取組みを実際にも実施することは大変なことだと思う。
- (事務局返答) 現在の三者協働に加え、他機関連携により、組織が疲弊しないような形で運営していく。まずは、実現可能性の高いものからやっていく形になる。それを踏まえ、来年度以降、運営を実践する中で、足りない視点についてご意見いただき、最終答申をいただきたい。
- ・防災教育の教材作りにおいては、予想外の反応を避けるため、災害が起こった場所については一般化して記載し、対応や避難については具体的に記載するといった工夫が必要。

### (小山田委員)

- ・新しく防災という視点が入ってきたのは画期的。近くに生きた教材があり、現場を使えてよい。
  - ・施策事例一覧のような表を作るときは、実現手段や資金の計画などのバックデータがなければならない。展示改善やリニューアル等は、博物館や行政では計画が難しく、基本計画や詳細設計などのステップが必要で、経費が発生する。
- (事務局返答) 中長期の取組みについての資金等計画は今後の検討事項であると考えている。
- ・PDCAサイクルの確立で問題になるのは指標。資料中の指標は極めて定量的なものが基準になっているが、博物館の目指す3つの方向性の中には定量だけで測れないものもある。
- (事務局返答) ご指摘のとおり、定性的な指標もあると思われる。学識者の協力も得て検討し、次回審議会で示したい。
- ・多くの取組みが挙げられているが、体が不自由で博物館にいけなくても、山に住んでいても博物館の情報入手できる、博物館のユニバーサル化の観点を加えることで、より厚みが増すと思う。
  - ・防災教育では、具体的な場所を示すと、そこに住む人の不安につながるということがあるので、配慮が必要である。

### (栄原委員)

- ・防災教育の拠点というものをかなり大きな柱にしたのは賛成。
  - ・防災教育について、狭山池博物館として取組むならば、大学等との連携により災害の歴史的研究を基礎として置くことで、防災教育がより厚みのある内容になるのではないか。
- (事務局返答) 流域の博物館や教育委員会と連携し、狭山池博物館のストックを活用し、小学生にも分かりやすい教材を作成するための勉強会立上げに向けて現在取組んでいる。
- ・「土木の歴史的価値の継承」の取組みが展示の改善や充実に偏っていると感じた。研究と展示は車の両輪の関係であり、良い展示のためには研究の蓄積が必要である。
  - ・“多様な方式による連携(例)”について、『学術協力』もあるのではないか。
  - ・取組みにより収入が増えた分、運営費を減額されることがないか危惧しているが、この点についてどう考えているか？
- (事務局返答) 事務局において、府内部で継続して協議していく。
- ・資料中に狭山池が国史跡であるという記載が見られないので入れてもらいたい。

### (向山委員)

- ・防災教育という視点ができただけは有用。昔この規模の台風や洪水でどれだけの被害があったかという情報は地域で求められている。
  - ・連携をどう繋いでいくか。方法は結構あると思う。ぜひ様々な形で実現して欲しい。
  - ・面白い展示があればいいと思う。目で見える、触れる、体感できるという、分かりやすい模型や体験型の展示が魅力的だと思う。
  - ・現状の仕組みの中で、博物館でグッズや大阪狭山市の地場のものを売るということに制約がないか教えてほしい。
- (事務局返答) 府施設内に自動販売機があるのと同様、制度設計をすれば可能と考えている。

### (森委員)

- ・博物館ではボランティアガイドで来館者サービス向上部会を立ち上げて、満足度の上がる工夫、来館者からのご意見を集める取組みを行っている。
- ・来館した人がもう一度来たいと思うような、本当に魅力の向上につながるものを順番を決めて、それぞれのプランについて具体的な行動を来館者が目に見えるようなかたちで実行して欲しい。
- ・防災教育は子どもたちを博物館に呼びチャンスだと思う。楽しめるシナリオ、教材を考えてもらえればと思う。
- ・展示の現状は説明が主体になっている。展示改善の取組みで体験型の展示も導入してもらいたい。

(和田委員)

- 今まで使っていないところも有効活用していくという考えはよい。
  - できること、やるべきこと、やってみたいことなどたくさんの施策事例を出すことが大切だと思う。実施する時は、3本柱（「土木の歴史的価値の継承」「土木事業・土木技術の歴史『知』の交流・発信拠点」「地域魅力創造」）のどれをやっているか分かってくると、館としてのブランディングも確立し、博物館がどのような方向性で、どのような事業をするのか明確になる。バラバラでなく、シーズンごと、もしくは年ごとのテーマを打ち出すとさらに魅力が向上してくる。
  - 連携相手に土木関係の団体が多く掲載されているが、『地域魅力創造』に関する連携相手がもう少し出てくるのでは。まちづくり系部門の行政、民間、地域の方など。
- （事務局返答） 『地域魅力創造』については、大阪狭山市と連携しながら取組んでいきたい。
- 防災教育を徹底的にやっていくということで、南大阪における一番の先行事例として狭山池博物館が知られるようになれば、南大阪の学校がみんな狭山池に来るという可能性がある。ぜひ取組んでほしい。